

SEMI（札幌英語医療通訳グループ）の取り組み

—医療面からの留学生等のサポートを目指して—

SEMI Sapporo English Medical Interpreters Group:

Supporting International Students and the International

Community with Their Medical Needs

北海道医療大学非常勤講師 北間 砂織

KITAMA Saori

(Part-time Lecturer, Health Sciences University of Hokkaido)

キーワード：医療通訳、留学生支援

はじめに

「I have been introduced to SEMI Sapporo through my wife Japanese teacher. I had a severe back pain that lasted for long time, however, I was lazy to go to doctor mainly because of the language barrier, but after I contacted SEMI Sapporo group, I found myself with a doctor the next day. The interpreter was extremely nice and supportive with fluent English skills, and she did not only interpret for me, but also she was caring for my situation, and took her time to wait with me for a long time till I got to the doctor room. From that time, I feel relief now about my medical situation, since I know there is someone there to help. Thank you very much.」(SEMI のホームページより)

これはある留学生が SEMI (Sapporo Medical Interpreters Group, 札幌英語医療通訳グループ) のサポートを受けて医療機関を受診した後に寄せたメッセージの一部である。言語が障壁となり、受診をためらっていたことを我々はこのときに初めて知ることとなった。

日本への留学という夢が叶い、希望にあふれて留学生を送る留学生が増えており、札幌でも日本でのスーパー等での買い物、防災知識といった日常生活に関することから、法律相談など専門性の高いものまでさまざまな団体が留学生支援を行っているが、SEMI が発足するまでは、医療に関する十分

なサポートは提供されていなかった。文化、言語、生活習慣、宗教、気候などが全く異なる環境で留学生が体調を崩すことは珍しいことではなく、また、博士課程の留学生や博士研究員の年齢層は、ちょうど本人や配偶者が妊娠出産をする時期とも重複する。

日本では、英語を理解する医師は珍しくはないが、医療機関を受診する際には医師にたどり着くまでにいくつもの関門を越えなくてはならず、先に紹介した留学生のように体調不良を抱えながらも受診を先延ばしにするケースは珍しくない。ことばの壁を理由に受診を控えてはいけないという共通の思いから、2009年4月にSEMIが発足した。

SEMI の設立

SEMI の紹介をする際に、代表の寺尾恵の存在が欠かせない。寺尾は夫の勤務に帯同し、アメリカで通算15年生活しており、ウィスコンシン州契約医療通訳としての5年間の経験がある。彼女の経験がSEMIの基礎となっている。札幌には医療通訳を標榜するNPO法人があり、医療通訳に関心のある者はここに所属していたが、この団体は医療機関と有償で契約を結んだ後に医療通訳を派遣するというシステムを取っており、医療機関が通訳の費用を支払うことが実際にはほとんどないため、会員には現場で医療通訳をする機会はほとんどなかった。寺尾は夫の勤務先のボランティア団体「北海道大学国際婦人交流会」に所属しており、留学生とその家族の日常生活のサポートに関わってきた。医療面でのサポートを必要とする留学生が多い反面、そのサポートを提供する存在がないことを痛感しており、まずは通訳派遣できるグループが必要だと考え、同じ志を持った仲間13名とともにSEMIを立ち上げた。運営資金もなくオフィスもない状態で、有志が週に一度集まり勉強会を行い、まずは医療通訳者としての自分たちの実力を磨くことを目指した。

医療通訳派遣スタート

SEMI 発足後、早速国際婦人交流会でつながりのある留学生のお子さんの小児科受診の通訳依頼があった。やがて口コミで広がり、子どもの健診や予防接種、妊婦健診、出産、留学生やその家族の病院受診等へと通訳の幅が広がっていった。SEMI としてのリーフレットを作成し、公益財団法人札幌国際プラザの交流サロンに置いてもらうなど、周知の活動も行った。

SEMI への依頼は、電子メールでの対応としている。オフィスがないため、電話での依頼を受けられないことと、個人の携帯電話番号を教えると時間を問わずどんな相談でも電話がかかってしまうこと、口頭ではなく文面で記録を残すことが重要であるといったさまざまな理由のためである。SEMI 用に一台の携帯電話を用意した時期もあったが、受け渡しが大変であること、スマートフォンの普及により常時メールチェックが可能となったことによりこれを廃止した。現在は、SEMI の運営に携わっている委員会のメンバーが交代でコーディネーターを務め、メール対応や通訳派遣の割り当てを担当

している。また、2011年にはホームページ (<http://semi-sapporo.com/>) を立ち上げ、ここからも問い合わせメールを送れるようになっており、海外からの問い合わせも増えるようになった。

SEMI 会員について

2015年12月現在、SEMI 会員は26名である。勉強会に通常参加しているのは18名で、医療通訳者として独り立ちしているのはこのうち13名である。この他に、配偶者の転勤等で遠方に移転したがホームページの運営等で会員として活動をサポートしているのは3名、医師が4名、公衆衛生学の研究者が1名でこの5名はアドバイザーとしての役割を担っている。年齢層としては、アドバイザーを除くと30代1名、40代7名、50代6名、60代5名、未回答2名である。医師の2名は男性で、その他は女性である。産婦人科での通訳の需要が多いことや宗教的理由から、女性通訳者を希望するケースがとても多い。

この中から、委員会のメンバー6名について、SEMI 入会の時期と動機、SEMI 以外での経験を紹介する。各自自由記述となっているため統一した形式ではないが、SEMI 会員の多様性がわかりいただけと思う。寺尾、伊藤、北間は SEMI 設立メンバーで、伊藤は薬剤師でもある。

・代表 寺尾恵 (てらおめぐみ)

-SEMI 入会時期:2009年4月(設立時)

-SEMI 入会の動機:アメリカから帰国し、日本でも医療通訳の仕事を探したが当時(2003年)何もなかった。病院に行くときにことばが通じず困っている外国人がたくさんいることを知って、医療通訳の便利さを知ってもらうために、まずはボランティアとして始めてみようということで、有志13名で SEMI を立ち上げた。

-海外経験:夫の仕事についていき、アメリカで15年暮らした。

-SEMI 以外の通訳経験:(アメリカの病院で契約医療通訳5年、教育委員会の通訳1年)、日本では Mediphone の電話医療通訳1年

・副代表 伊藤志保子 (いとうしほこ)

-SEMI 入会時期:2009年4月

-SEMI 入会の動機:医療のバックグラウンドを生かしながら英語を使って多文化にかかわる仕事に興味があった。

-海外経験:ドイツ:2年間、USA:2年間、インド:10カ月、ドミニカ共和国:2年間、パラグアイ共和国:2年間

-その他:通訳が守るべき規範を一から学んだ。医療の場では様々な人生のドラマがあるが一喜一憂してはいけないと思いつい心は乱れる。通訳者としてはしゃきっとしているべきと思っても結構難しい。やはりイスラム文化を理解するのが私にとっては一番努力を要する。

-SEMI 以外の通訳経験：ボランティアベースで日本の太鼓集団の渡米時通訳、NGO でニカラグア大使、キューバ大使などを札幌へ招いたときの大使夫人のアテンド、JICA 研修生の小学校訪問時の通訳。

・副代表 北間砂織（きたまさおり）

-SEMI 入会時期：2009年4月（設立時）

-SEMI 入会の動機：医療系の大学で英語の非常勤講師を担当することになり、医療と英語の接点を考えたときに医療通訳というものを知った。留学時に多くの人のお世話になったので、今度は札幌で留学生の手助けができれば、と以前から考えていた。また、外国人が直面する課題などを医療従事者を目指す学生に伝えることができるという立場からも、医療通訳者を目指したいと思った。

-海外経験：イギリス 3年間（大学院留学および夫の長期在外研修帯同）

-SEMI 以外の通訳経験：会議通訳者。2015年春にマレーシアのマハティール元首相が福島県の病院を訪問した際の通訳も務めた。

・渉外 長南朗子（おさなみあきこ）

-SEMI 入会時期：2010年 春

-SEMI 入会の動機：SEMI のメンバーからお誘いがあり、また、医療通訳にも興味があった。

-海外経験：1986年9月～1987年12月 アメリカ合衆国 カリフォルニア州

-SEMI 以外の通訳経験：ガイドとして、クルーズ客船のお客様への対応。ご高齢の方も多く、観光中、体調不良になられる方もいて、SEMI の活動経験はとても役に立ちます。また、先日は頭痛薬をお買いになったお客様が特定の成分のお好みがあり、SEM の活動で得た知識が役に立ちました。

・会計 吉田曜子（よしだようこ）

-SEMI 入会時期：2013年10月

-SEMI 入会の動機：退職後外国人が日本で生活するときのサポートに関わる通訳ボランティアをすることを希望し、SEMI のホームページに出会ってその活動の姿勢に共感したので。

-海外経験：10歳から14歳まで親の外国勤務に同行してアメリカ、ニューヨーク市在住経験あり。

-SEMI 以外の通訳経験：某 NPO 市民団体で、アジアを理解する目的でアジア人留学生を教師と限定する英会話教室のコーディネーターを務めた。その間その団体主催の外国人ゲストを招いての講演会の通訳を務める。

・研修担当 山崎望美（やまざきのぞみ）

-SEMI 入会時期：2011年12月初めに、SEMI 勉強会を見学してから入会。

-SEMI 入会の動機：米国在住の際に現地の方に、子供の学校などでお世話になったことがとても印象に残っており、帰国後札幌在住の外国の方に何かできることはないかと思っていたところに、長南さんに SEMI を紹介していただいたことから入会。

-海外経験：1995-98年、米国フロリダ州マイアミ在住。主人がマイアミ大学医学部 Immunology &

Microbiology のラボで研究のため家族で渡米。

-SEMI 以外の通訳経験：アテンド通訳・英語ガイド（クルーズを含む、道内のみ）、スポーツ交流逐次通訳等

以上の6名には海外経験があるが、会員全てに海外在住経験があるわけではない。JICA 等で外国人支援に関する仕事に携わっている会員もいる。医療従事者としては、薬剤師の伊藤の他に歯科医師、臨床検査技師の会員が各2名ずついる。これまでに保健師や看護師の会員もいたが、海外移住等で現在は退会している。医療従事者からの入会問い合わせもあるが、活動時間帯の関係で難しいのが現状である。患者が医療機関を受診するのは、緊急時を除くと平日日中であることから、この時間帯に活動が可能な人のみを現在は入会の条件としているためである。このため、SEMI の主な戦力は現役を引退した人や主婦である。

勉強会について

前述のように、SEMI では週に一度、札幌駅そばの札幌エルプラザ（札幌市市民活動サポートセンター一等の拠点施設）を会場として3時間の勉強会を行っている。英語のリスニングスキル、アメリカの母親教室で使用する教材を用いたリーディング、医療通訳のスキル向上のためのロールプレイなどを行う。定期的に、医療通訳者としての倫理規定（Code of Ethics）についても学んでいる。通訳の依頼が勉強会と重複することもあるが、原則として週に一度は顔を合わせることで、様々な問題について話し合う機会にもなる。2015年の医療通訳士協議会シンポジウムで、通訳者が孤立し燃え尽きてしまうことへの対策が必要だという話が出たが、SEMI ではこの問題は起きていない。SEMI の勉強会はお互いに教え合い学び合う場であり、一方的に医療英語を教えてもらう場所ではない。自分は活動に貢献するつもりはないが、勉強会で医療英語を教わりたい、という人からの問い合わせも少なくないが、SEMI の趣旨に合わないため受け入れていない。

また、我々は英語と日本語という二言語間の通訳だけではなく、文化、習慣、医療への認識の違いなど様々な面での留学生と医療従事者との懸け橋となるため、ムスリムの留学生からイスラム教について学んだり、自国の文化や医療制度について留学生にレクチャーをしてもらうなど、SEMI のサポートを受ける留学生とその家族が SEMI の活動を支える存在ともなっている。

医療通訳者としての資格について

現在、日本には医療通訳に関する資格認定制度はない。誰でも、自分が医療通訳者だと名乗ることができるため、実力が不十分な自称医療通訳者が存在しているのも事実であるため、資格認定制度が急がれる。文章化された規程は SEMI には今のところないが、十分な実力があると複数のベテラン通訳

者が判断して独り立ちしてから、SEMIの医療通訳者として活動している。新入会員は、見学とOJTからなる研修を経て独り立ちを目指す。研修期間は個人差があり、独り立ちしてから最初のうちは赤ちゃんの予防接種や健診などからスタートし、徐々に難しい内容を担当するようになっていく。前述のように勉強会で常にお互いの実力を確認することができるため、高い質の医療通訳を提供できている。医療通訳者には英語力と医学の知識が必要となるため、医学のバックグラウンドがない人は英検1級程度、医療従事者は英検準1級程度がSEMI入会の目安となる。

守秘義務について

SEMIの医療通訳者は、SEMIを初めて利用するクライアントにはいくつかの事柄について事前に説明している。

There are a few things you could do for us to help the interpreting go smoothly.

First of all, please bear in mind everything will be confidential, so please feel free to say anything you want to the doctor.

Please speak directly to the doctor. We will interpret everything you say, exactly as you say it. We will also do the same for the doctor. Please speak in relatively short segments so that we can interpret accurately. If the interpreter makes a hand gesture, please pause so that s/he can interpret. Thank you. (SEMI リクエストフォームより)

留学生のコミュニティでお互いが知り合いであるケースも多く「この間、友達のXXさんがSEMIのお世話になりましたよね」という話は珍しくない。この際に患者の個人情報漏らさないことがとても大切である。「友達が北間さんのお世話になったのでよろしくと書いていました」といった内容であれば「XXさんはお元気ですか。よろしくお伝え下さい」と相手の話の内容を復唱する程度のことは伝えるが、受診理由や検査結果などを聞かれるケースもあり、その際は通訳者は内容を他者に伝えられないことと、誰かがあなたの受診について尋ねても話すことはない、と伝えている。当たり前のことではあるが、しっかり意識しないとつい答えてしまいそうになりやすい。北海道大学の留学生のように、一つのコミュニティに所属していると情報が共有されやすく、SEMIの存在の周知などには便利だが、個人情報の扱いには細心の注意が必要である

入院助産制度と無料低額診療

「保健上必要があるにもかかわらず、経済的理由などにより、病院で入院助産を受けることのできない妊産婦」(勤医協札幌病院ホームページより)を対象とした入院助産制度があり、文部科学省の奨学金だけで生活している留学生世帯はこの対象となる。札幌市の入院助産施設の一つが勤医協札幌病院である。ここの産婦人科には女性医師もいるため、ポストクなど収入があり入院助産の対象になら

ない妊婦でも、宗教上の理由で女性医師を求めて勤医協札幌病院で出産するケースが多い。このため、現場の医師やスタッフからの働きかけにより、SEMIの通訳者から数名がパート職員として雇用契約を結び、病院の医療通訳者として週に一度の固定日および臨時通訳が入るとその都度勤務するようになった。医療機関の負担により医療通訳者を雇用するというのは非常に珍しいケースである。

さらに、「北海道勤医協では、医療が必要にもかかわらず、生活の困窮を理由に医療費や介護老人保健施設の支払いが困難な方に対し、医療費の減額または免除を行う制度を実施」（北海道勤労者医療協会ホームページより）しており、単身の留学生は通常この対象にはならないが、夫婦で奨学金のみで生活している場合はこの対象となり、経済状況に応じて健康保険がカバーする医療費の自己負担がゼロになったり、一部負担のみになる。医療費を心配して受診を控える留学生も珍しくないため、この無料低額診療の制度は多くの留学生を支えている。産婦人科以外の受診も多いが、そちらは全てSEMIのボランティア通訳として対応している。

留学生とその家族の妊娠と出産

前述のように、特に博士課程の留学生は本人または配偶者の出産年齢と留学期間が重複することが多い。文化圏によっては、未婚の女性が単身で海外留学することが許されないケースもあり、留学のためにお見合い結婚し、来日してから妊娠が判明した学生も珍しくはない。地域によっては留学生がそのまま出産することが難しい場合はいったん休学して帰国して出産することもあるようだが、札幌では留学生の妊娠・出産に慣れている医療機関が複数あるため、学業を継続しながら出産することが可能である。指導教授に理解があることも多く、休学扱いにはせず、出産前後は大学に来なくていい、ペーパーをその分多めに書くように、などの指導があると聞いている。

留学生の配偶者が妊娠した場合は、サポート体制がない地域では夫を残して妻が帰国して出産しなくてはならないが、札幌にはSEMIがあり、医療通訳者を配置している病院もあるため安心して出産できることに驚かれ、そしてうらやましがられることが多いと何人もの留学生から聞いている。自国から短期間、親が出産のサポートのために来日する留学生もいるが、第一子の場合は多くは夫婦のみで出産を迎えている。大変ではあるが、家族として大切な期間を一緒に過ごせることはかけがえのない経験であることが推測される。多くの留学生が帰国の際には、学位を取れたことと家族が増えたことに対して心からの感謝のことばを述べており、留学生の人生の大切な時期のお手伝いができることは我々にとっても大変うれしく、やりがいがある。

通訳派遣回数について

上記の勤医協札幌病院産婦人科での有償通訳について、2014年度を例にとると289件の通訳を行っている。この他に、旅行者や、サハリンから緊急搬送される患者への有償の通訳も少しある。それ以

外はボランティアとして通訳派遣を行っており、SEMI 創設の 2009 年度には 56 件、2010 年度には 113 件、2011 年度は 197 件、2012 年度は 333 件、2013 年度は 393 件、2014 年度は 538 件、2015 年度は 4 月から 11 月の 8 カ月間で 382 件となっており、この 11 月には通算件数が 2,000 件を超えた。

北海道大学との連携

この通訳派遣の対象となる外国人の 9 割は北海道大学の留学生および研究者とその家族である。これを全てボランティアで行っていることを寺尾経由で知った佐伯前学長夫人の口添えで、北海道大学国際本部とのつながりができ、留学生を支援するためのフロンティア基金より留学生の通訳のための交通費の補助を受けられるようになった。さらに、国際本部から紹介を受け、平成 26 年度と 27 年度には日本学生支援機構を通じて公益財団法人中島記念国際交流財団からの助成金を得ている。

資金面以外でも、出産した家族をサポートしていくうちに、妊産婦が留学生や研究者である場合は子供の保育所への入所が必要となり、当初は SEMI で保育所関連のサポートをしていたがあまりにも忙しくなってしまったため、現在は北海道大学女性研究者支援室が保育所に関するサポートを行っている。SEMI の活動がなければ、この点のニーズがあることには焦点が当てられなかったと思われる例がある。

行政との連携

前述の札幌国際プラザは外国籍市民のための生活サポート等さまざまな活動をしている。医療については専門性が高いため、一般市民の通訳ボランティア活動の対象とはしていない。外国籍市民への医療に関する情報提供が必要であるとの立場より、2010 年度より外国籍市民のための母子保健セミナーを札幌国際プラザと SEMI で共催している。妊婦から 3 歳までの子どもを持つ外国籍市民を対象に、札幌市が提供している母子保健事業の紹介や、小児科医による講演が毎年行われており、留学生を中心とする外国籍札幌市民への重要な情報提供の場となっている。また、このセミナーのためにさまざまな資料の英語化が行われるようになってきている。

札幌市の施策の一つとして、新生児家庭訪問があり、出産した全ての札幌市民の家庭に保健師・助産師が訪問している。留学生の多い地域の担当者と SEMI とで協力して、通訳を介して赤ちゃんの発達の様子や産後の母親の健康状態などのサポートをしている。また、札幌市国際部とも定期的に連絡を取り合い、札幌市として外国籍市民のためにできることについて話し合いを続けている。

SEMI のこれから

北海道大学が平成 26 年度スーパーグローバル大学等事業「スーパーグローバル大学創成支援」タイプ A に採択されたことを受け、今後も留学生と外国人研究者が増えることが見込まれ、SEMI の活動が

さらに忙しくなると考えられる。医療通訳業界を巡っては、医療ツーリズムとして海外からの裕福な患者をターゲットとした動きが盛んになったり、2020年の東京オリンピックで医療通訳者として働くことを目指す人が増えるなど、時代に応じてさまざまな流れがある。その中で SEMI は、地域に根差した活動を目指しており、札幌に在住している人をサポートすることを最優先しており、ことばや費用が医療機関の受診の妨げとなってしまうといけないという一貫した思いを皆が持っている。

勤医協札幌病院産婦人科医の長島香医師によると「ことばが通じないのはリスクの一つ」とのことである。医療機関でのリスクを減らすためには、SEMIのようなボランティアの活動に頼るのではなく、将来的には公的な支援が確立することが望まれる。

SEMI のサポートを受けた留学生とその家族が、自分たちも SEMI に貢献できることはないかと申し出てくれたり、帰国後は自分たちも同じように助けを必要としている人のサポート活動を始めたい、と言ってくれる人が増えている。また、SEMI の通訳者の年代がちょうど留学生の母親と重複することから、SEMI は日本の家族、日本のお母さんだ、と言う留学生も多い。

筆者自身にも留学経験があり、渡英した初日の夜の不安さを今でもよく思い出す。一人でも多くの留学生が順調に勉学に励み、もし病気やけがをしてしまったときには不安を最小限にして速やかに受診し、早く日常生活に戻れるようにこれからも支援を続けて行きたい。



SEMI の医療通訳者たち（筆者は前列左から2番目）